

小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 48

2023年12月12日（火）発行

発行責任者:草野篤子(白梅学園大学)

TEL: 042-346-5639

住所:〒187-8570 東京都小平市小川町1-830

分かった会 10周年記念

代表:奈良勝行



2013年12月初旬に「分かった会」が誕生した。これより1年半先、白梅学園大学が団体をいろいろなボランティアと一緒にした「小平西地区ネットワーク」が結成されていた。私がこのネットワークで何ができるかを考えたとき、自分が高校の教師だったので、このネットワークで中学校の授業に遅れ気味の生徒の学習支援をすればよいのでは、と考えた。そこで近隣の中学校の校長先

小平西地区ネットワークって何？

2012年3月17日に白梅学園大学関係者が様々なNPO、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース(団体の担当者でも可)の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加なさいませんか？

生に会い、その旨を話し、了承を得た。会場は市立公民館の学習室や講義室。近隣の3つの中学校に各担任を通じて募集のチラシを配布した。また市の教育委員会の後援を得た。これは各中学校の生徒全員配布をしてもらえるからである。

会の名称は「分かった会」とした。これは勉強の「分からないところが分からない」こと事を考え、生徒に発する言葉がよいと思うことを語呂合わせ的に考えたのである。

講師は市の広報誌に募集したところ、10数人集まった。元教師をなさった方がほとんどだった。初めは週1回木曜日の午後6時から8時までの2時間とした。そのうち中3生徒にについて、受験対策の関係上火曜日にも2時間講座を設置した。初めはいろいろな試行錯誤を積みかさねながら出発した。市からは「後援」の名称だけで、金銭的な支援は返上することにした。「望まない規制」がかかることをやめるためである。

なんとか10年が経とうとしている。コロナ禍のこの数年間は一番の試練だった。約3か月の休講をやむを得ずしたが、あとは何とか継続した。この間、約50人が「分かった会」を「修了して」高校に進学していった。

生徒が「ああ分かった！」と顔をほころばせることを期待しながら講師たちは「継続は力なり」をモットーに今宵も灯(ともしび)たやさず頑張ってきている。今後も継続していきたい。

「分かった会」創立 10 周年

おめでとうございます

草野篤子(白梅学園大学名誉教授)

2011(平成23)年3月11日に発生した東日本大震災及びこれに伴う福島第一原子力発電所事故災害は、白梅学園大学及びその周辺地域住民に、地域について深く考えさせる契機を与えました。それから1年間の準備期間において、「小平西地区地域ネットワーク」が組織されました。「分った会」は、そのネットワークの重要な一環となっています。

白梅学園がある東京都小平市は、昔からの農村部へ新たにサラリーマン層がマイホームを求めて形成された町と思われま



「分った会」は、この12月6日で、10周年を迎えます。何人もの中学生、時に小学生も含めて、地域の先生方に、一対一やそれに近い恵まれた教育環境で、勉強の分からないところを、きめ細かく指導していただく機会に、恵まれています。

先生方は、元小・中・高校の先生であった方や、大学生、現在、大学の先生をしている方、以

前は直接学校の先生などではなかったが、子どもの教育に真剣に携わりたい方など、多様です。

現代社会は、高度に発達したIT社会ですので、中学校時代に習得した基礎に加えて、高校で学ぶ中等教育も習得していないと、社会の一員として上手くやっていけなくなっています。そのため、一人ひとりが、中学校での基礎をしっかりと身につけて、高校に進学してほしいと、先生方はとても真剣です。

話は、全く違いますが、私が2人の子連れで、米国カリフォルニア州スタンフォード大学大学院に留学していた時、子どもは、温暖な気候なので、一年中、スイムチームで、屋外のプールで、夕方6時から7時半くらいまで水泳の練習をしていました。ジェフ(Jeff)という質素な身なりのとても優しいコーチが、ボランティアで、指導してくださっていました。

そのお陰で、以来、25メートルプールを何十回も、泳げるようになりました。

「分った会」も、熱心なボランティアの先生方のおかげと、皆さんの努力で、10年間にわたって、高校受験を成功させ、より高度な勉強についていけるように、育っていった学生さん達が、沢山います。

10年前に、「分った会」の種をまいてくださった先生方に、感謝と共に、尊敬の拍手を、お送りしたいと思います。これからも、益々、「分った会」が、発展されることを、心から願っています。

通常の教育活動へ

白梅学園高等学校長 武内 彰

小平西地域のみなさま、いつもお世話になりました。ありがとうございます。

本年5月に新型コロナウイルスの感染法上の扱いが変更となり、学校においてもこれまでの厳しい状況から通常の教育活動へと戻りつつあります。

本校でいえば、5月の体育祭は1日での実施へ戻し、3年生保護者に公開しました。また、4年振りにルネこだいらでの合唱コンクールを再開し、全学年の保護者に公開しました。さらに、9月の白梅祭（文化祭）は入場時間制限などを設けることなく、在校生保護者、中学生とその保護者に公開することができました。

海外修学旅行は残念ながら国内へと変更を余儀なくされましたが、北海道コース、北陸・関西コース、沖縄コースと3方面に分かれて、11月上旬に実施することができました。どのコースにおいても各地域において文化や人と触れ合い、友との楽しい時間を過ごし、学びの多い5日間を過ごすことができました。

このように約3年間の新型コロナウイルスによる特異な教育活動の制限が緩和され、本来の教育活動へと戻りつつあることは、学校関係者にとってありがたいことです。かつては昼食時にも黙食といった行動をとらざるを得ませんでした。現在では生徒たちが節度ある会話を楽しみながら、昼食を摂っています。いたるところで生徒たちの笑顔や笑い声が当たり前に見えたり、聞けたりする現状となっています。

本校の授業では「生徒間の対話と表現」の場を設けて、対話を通して新たな気づきを得たり、考えを深めたりしながら学ぶ活動を大切にしています。また、部活動ではハンドボール部がインターハイ優勝、国体準優勝し、陸上競技部もインターハイで入賞することができました。

今後とも地域の皆様の御支援の下、生徒たちとしっかりと向き合って教育活動を行ってまいります。

いき楽ランドおがわの紹介

地域包括支援センターけやきの郷

伊部美穂子

小平市小川公民館で開催している「いき楽ランドおがわ」を紹介いたします。いき楽ランドおがわは、介護予防リーダーが中心となって月に一回、体を動かしたり、脳トレをすることで介護予防できる場を提供しています。（介護予防リーダーというのは、地域住民の方で希望される方が、市

の介護予防講座を8回受講した方のことです。毎年講座を開催しています。）

体操では、いき楽体操といき楽筋力アップ体操という小平市独自の体操を取り入れ、体を動かします。（いき楽体操では、小学唱歌に合わせて体操するので、大きな声で歌ってくださるとうれしい

です。) 脳トレでは、足先から指先までちょっと頭を使いながら動かす動作や、リズムに合わせて声を出したりするトレーニングをしています。

どちらも介護予防リーダーが前に出て声をかけてくださいます。



体操は、その動きがどこの筋肉に効くのか、どういう動作に効果があるのかなど説明があり、理解しながら体を動かすと尚効果が上がります。脳トレは、簡単な動きではあるけれども、普段しない動きをするので失敗することもしばしばありますが、失敗しても笑って、何度か練習しているうちにできるようになることもあります。



この活動の魅力は、介護予防リーダーが内容を考え、共に介護予防をしていきたいと思いますという想いで作り出されていることです。いきいきと楽しく介護予防できるのがいき楽ランドおがわです。現在、毎月第四金曜日に開催していますが、「月一回では物足りない」というお声をいただいています。2024年2月以降は月に二回の開催ができるよう調整中です。一緒に介護予防に取り組みたい、月に1、2回楽しく過ごしたい、仲間を作りたいという方は、ぜひご参加ください。ご参加をお待ちしています。参加費は無料です。お問い合わせは、地域包括支援センターけやきの郷 (042-349-2321) までどうぞ。

～小平市いきいき共同事業～

フレイパークだ遊ぼう in 鷹の台公園

NPO 法人こだいら自由遊びの会

福本志濃夫(代表)

子どもの成長にとって遊びは多くの事を実体験として吸収し、自己の確立、想像力、社会性といった逞しく生きていくために重要な基盤を育む必要不可欠なものと私達は考えています。

昨今の公園は禁止事項が多く、子ども本来の遊びの活動が著しく制限されることが多く、昔はできた、木登りや穴掘り、秘密基地づくりなどはもとより、ドッチボールやキャッチボール、ろくむ

しなどボール遊びもほとんどの公園で禁止になっ



ています。ひどいところでは子どもの遊ぶ声が迷惑とのことで、裁判になったり、「声を出さずに思いっきり遊びましょう」という看板っまで立つ始末です。私達の活動は今の公園では難しくなっ



子どもたちに必要な遊びが思いっきり展開できる場を提供することで

「こだいら自由遊びの会」は、1998年10月より「自由遊びの会」とい

う名のプレーパークを市内で開いて多くの方々の参加を得て来ました。また、2011年からはNPO法人化して、地域における活動を充実させてきました。しかし市民の持ち出しの活動では限界があります。子どもたちの遊びの場をより充実させ担保するためには行政の力が必要不可欠となります。

そこで私達は市の「いきいき協働事業」に応募し、新しく出来る鷹の台公園（創価グラウンド跡地）で、行政と共にプレーパークを開催する事で行政に必要性への理解を深めてもらうと共にプレーカーという移動式プレーパークを体験してもらい、導入を検討してもらえたらより良いと考え実施しました。プレーカーがあれば、市内を移動しながらプレーパークを開催することが可能となります。初期の普及活動には大変効果を発揮します。

イベントはおかげさまで最終日午前中雨にもかかわらず2日間で300人以上の来場があり良い感触で終わることができました。今後とも地道な活動を楽しみながら続け、小平市とも良い連携を保ちながら、子どもたちを取り巻く環境をより良いものにできるよう取り組んで行きたいと思えます。将来的にはプレーパークのような子どもの成長に必要な事業を小平市の事業として本格的な取り組みとして実施される事を願ってやみません。

白梅学園大学附属白梅幼稚園

「こどもがつくる世界」

本橋幸子

2023年11月23日(祝・木)、今年も白梅幼稚園の「こどもがつくる世界」が行われました。

子どもが日常的に遊んでいる中で、好きなこと、おもしろいことに会い、やってみたい、つくってみたいという思いから広がっていく遊びの世界を保護者の方々に見ていただく日です。

新型コロナウイルスによる感染予防のため、ここ数年は時間と人数を制限しての開催でしたが、今年度は人数の制限もなくし、外部の方にも公開することができ、久々に大盛況な時間になりました。「こどもがつくる世界」は、子どもたちによって興味や関心、好きなことがそれぞれ違うだけにクラスごとに世界も違います。

子どもたちのなにげないつぶやきや、気づきによって生まれてきたあそびの世界です。



そんな遊びの世界の一部をご紹介します。年少組では、バイク・ゴミ収集車などの乗り物を見立ててつくり、乗ったつもりになって運転したり、紙粘土でつくったごちそうをお皿に並べてレストランを始めたり、お店屋さんを開店しました。



中組は、1学期から電車作りが流行り、本物らしく見えるように色や模様を考えて遊んでいました。

多摩動物公園に園外保育に行った後は、空き箱でつくった動物がさらに増え、洋服を着せたり、散歩したりと大切にしていました。本物はどうなっているかを考えながら、消防車やライオンバスもできました。

年長組は、遊ぶために必要なものを日々つくっています。手作りの車や人形をつくり、人形の家をつくって遊んでいたことをきっかけに、自分が住んでる家をモデルに家づくりも始まりました。人形を動かしてあそんでいくうちに、生活に必要なものが増え、皆の家をホールに並べて町のようにになりました。

子どもたちのつくる世界はつくって終わりではなく、子どもたちの「やってみたい」が実現できることで、おもしろさが増し、つくってはあそび、あそびではつくるのが今なお続いています。あそびの世界は永遠です。

「出張あそぼうかい in おがワンフェスティバル」

白梅学園大学子ども学科4年 川野 晴紀



今回は、介護老人福祉施設小川ホームで4年ぶりに開催された「おがワンフェスティバル」

に出張あそぼうかいとして参加させていただきました。4年ぶりの開催ということで小平地域在住の様々な方々が楽しみにしてくださっていたのか、たくさんの方々を迎え大盛況となりました。

私たちは前日に開催したあそぼうかいで使用した「ボールころしゲーム」を改良して出展しました。このゲームは昔話「はなさかじいさん」をモチーフにしており、桜の花びらで彩られた斜面の上からボールを転がし3つの的を倒すものでした。的を倒すと意地悪爺さんから良い爺さんなどに絵柄が変化するような仕掛けになっており、はなさかじいさんの物語に沿った絵柄の変化も楽し

んでいただけました。また、ボールを転がすだけの簡単なゲームでありながら、ボールが意外と思った方向に転



がってくれない面白さがあり、子どもから高齢者、障がいの有無に関わらず様々な方が取り組んで下さいました。景品にはお菓子を用意していた

ため、参加者の方の中には4回程リピートしてくださった方もいらっしゃいました。

今回、このイベントで出展させていただき、地域の中に住む多種多様な方々と接することができました。その中で、子ども、学生、大人、高齢者などが年齢に関わらず楽しむ姿を目の当たりにして世代間交流の地域にもたらす良い影響を感じ取ることができ、非常に良い学び、経験となりました。

～清修の英語プログラム～

白梅学園清修中学校・中高一貫部

校長 山田 裕

清修では「英語が好きになる」「英語を使ってみたくなる」機会を意図的に計画し、興味や関心をもたせ、中高一貫校だからこそできる、6年間を通して英語のスキルを高める様々な計画を考えています。

1 海外語学研修【高校1年生、カナダ】

本年度はコロナ禍の収束により、これまで中止したり縮小したりしてきた学校行事をフルバージョンで実施することができています。なかでも本校の学校行事の中で生徒たちにとって最大のイベントである海外語学研修を4年ぶりに、本年度は高校1年生と昨年度延期した高校



2年生を対象にして、12日間、カナダのバンクーバーで実施いたしました。

語学体験や異文化理解・交流などをはじめ、11月の10日間を現地でホームステイする中で普段の生活とは全く違う家庭生活の体験をしたり、本年度初めての試みとして現地企業の職場を体験したりするなど、生徒たちの今後のキャリアを考える上での刺激も期待しています。教師が思うより積極的にコミュニケーションをはかる生徒の姿をうかがうことができ成果を感じます。

2 英語国内研修【中学2年生、広島、京都】

全国の中高生の修学旅行先として定番の京都と広島で、日本の歴史や文化、平和について学びます。他校との大きな違いは、現地の大学で学ぶ留学生との交流

にあります。生徒2、3人に一人の留学生とともに、第一日目の広島では、平和記念公園、平和記念資料館で平和について、三日目の京都では歴史的な文化遺産



について、自分はどう感じてどう考えているかという思いを発信し、双方のコミュニケーションにすることをねらいとしています。京都ではバス地下鉄の一日乗車券を使ってまわったので、生活習慣についてなど、身近な話題を話す時間が多くあったようです。また、私たちの想定外の成果として、日本で何を学んでいるのかという留学生への問いに対して、母国の様々な困難な課題を解決するために勉強しているという留学生の強い意志を生徒たちが感じ取り、学ぶということを考える機会となりました。

3 「英語を好きにさせる」清修の英語プログラム

日常の授業の中で、英語に慣れ親しむためにリスニング、スピーキングを重視し、対話的な授業を大切にしています。週一回放課後や昼休みに、中学一、二年生はミッションカードといって、ネイティブ教員から日常生活に関わる話題や趣味について一対一でディスカッションをします。高校生になると、社会問題や環境をテーマに用います。

その他、小平市内の留学生との交流や、年度末に開催される EnglishEXPO(英語の文化祭)、本年度からは全国高等学校ディベート大会にも参加し、積極的に英語を使う、英語で楽しむ機会を設けています。

皆さん、コミュニティ・サロン(下の①～④)と「中学生勉強会」(④)に足を運んでみませんか?

お待ちしております!

① ほっとスペースさつき

毎週火曜と木曜 10:00～16:00 (移転先検討中) 問合せ: 渡辺 穂積 TEL: 042-344-7412

② ほっとスペース第二きよか

毎月第二月曜 13:30～15:00 参加費 200 円 (移転先: 小平市小川町 1-755-2-106) 問合せ: 瀧口優 TEL: 080-3450-6878

*2023年7月10日(月) ほっとスペース第二きよかがスタートしました。参加費 200 円

*9月からは第一月曜に実施しています。(1月15日、2月05日、3月04日、4月01日) 13時30分～15時30分

③ カフェなかじま

毎月第1水曜日(祝日の場合は第2水曜日) 13:30～15:30 中島地域センター 参加費 100 円

④ 「分かった会」小中無科学習教室

毎週木曜日 18:00～20:00 (小川公民館) 問合せ: 奈良 勝行 (講師募集中!) TEL: 090-4435-4306

9月からは火曜日も中学校3年生用として開室しています。

イベントの予定

- ・1月12日～15日 2023年度 武蔵野美術大学 卒業・修了制作展
- ・1月20日(土) 13時～白梅学園大学子育て広場シンポジウム

西ネットの今後の予定

- 大学世話人会: 01月09日(火) 18時～
- 地域世話人会: 01月30日(火) 18時～
- 大学世話人会: 02月06日(火) 18時～
- 地域懇談会: 03月09日(土) 15時～

西ネットの世話人

ブロック	地域世話人	大学世話人
1	西 克彦・丸山安三	瀧口 優・杉本豊和 福丸由佳
2	足立隆子・芳井正彦・ 今野志保子	午頭潤子・土川洋子 吉村季織
3	大内智恵子・久保田進・ 杉浦博道・吉田徹	金田利子・草野篤子 西方規恵・牧野晶哲
4	桜田 誠 細江卓朗・渡辺穂積	井原哲人・森山千賀子
全体		奈良勝行

*西ネット創立以来第3ブロックの世話人をお願いしていました穂積健児さんが、11月28日に亡くなりました。謹んでご冥福をお祈りします。

お願い: この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当までお申し出下さい。

投稿募集: このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください(奈良勝行)。

メール: ever.onward.nara@xd5.so-net.ne.jp

編集後記: 「小平西のきずな」も今回で48号を迎えます。西ネットのスタートから12年が経過し、1年遅れでスタートした中学生勉強会「分かった会」もこの12月で10年が経過します。地域では対面で集まる機会が増えていて、多くの人が「会いたい」「話したい」と思っています。徐々に枠を広げて行けたらと思います(瀧口)。